

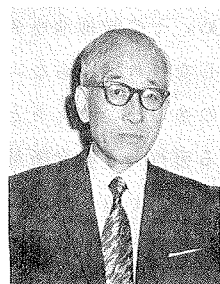
いと願うものであります。

それにしても大切なのは、協会内部並びに外部との信頼関係であります。現在、日本社会の最大の危機は、すべての人が被害者意識で加害者を悪と罵っていることであります。責任の回避と転嫁が横行し、日本を総がかりで破局に追いこんでいるかに見えます。公害についても被害者意識と同時に、自分自身のうちに加害者の

面はないかとの反省を要します。お互い人間には、勤勉と怠惰、忠誠と謀反、愛と憎、祝福と嫉妬を同時にもち、悲しい本性のあることを認識し、その傷口を労わり合うところに誠意が感ぜられ、信頼が生れ、協会の発展が可能と思うのであり、私はこんな気持ちで処したいと考えています。

会長退任にあたり

河 田 党



去る昭和48年12月21日、第3期役員任期終了に伴い、本会会長を退くこととなった。思い起こせば昭和40年6月、第1期役員の退任に当たって会長の席を汚して以来3期、8年半に及ぶが、幸にこの間、日本の経済成長の波に乗り、人手不足と生活程度の向上により、除草剤・生育調節剤の需要と品質改良の要望はいやが上にも高まり、これが物資豊富の助けを得て、本会の業務・内容も格段の発展充実を遂げることが、出来たと同時に、この間大禍なく会長の任を果たし得たことは関係各位のご協力ご支援の賜物と深く感謝する次第である。

顧みれば本協会の設立に当たって、私は何らお手伝いもしなかったし、その立場にもなかったのであったが、昭和40年1月、私があと1年以内に農業技術研究所長を退官する意図を明らかにしたところ、本協会の会長就任のおすすめがあり、お受けした次第であった。それも当時は、既に副会長も決まっており、会長の実際の事務と言ったようなものは殆んどないような状

態で、事実創立当時の事務所は大久保の蚕糸科学研究所内にあって、こゝには時々顔を出す程度に過ぎなかった。間もなく事務所を港区の第4森ビルに移したが、日ならずして副会長が急に他に転出することとなって、その後任人事が思うよう行かず、副会長の事務をしばらく私がとっていた。当時の協会の経済状態は餘り多くの人員を抱えていることは分に過ぎたことであつたので、副会長をおくのをやめてそのまま会長がその事務をとることとしたため、私の事務量は増した。特に会計などについて充分な形式が整っていなかったもので、かなりの煩雑が見られた。その後、協会の業務の進展と共に事務スタッフも整って来て、ようやくこう言つた事務も軌道に乗って来たが、これと前後して鴻巣市に研究所を設けることとなり、研究所長の専任も置けなかったので、会長が1週間に1度はこゝに行つて、試験の遂行状態や研究所の運営などに一応の目を向けることとしていた。しかし、これも3年前から専任の研究所長を置き、

この仕事からは開放されたが、これと前後してようやく環境汚染の問題が世論を賑わすようになり、除草剤・生育調節剤の作物および土壌中の残留の試験ならびに分析を協会が受託することとし、そのために設けられた委員会の運営は主として私が出席していた。ところが、またまた鴻巣市附近の都市化の進展目覚しく、研究所も他へ移転を餘儀なくされる状態となって来たため、その候補地をさがし、これを選定し、買収しなければならない仕事が出て来たが、私がその糸口をつけたあとは、事務スタッフの果敢なる実行力と研究所員の綿密な補佐とによって、ようやく土地の買収も昨年来を以て概ね完了し、建築設計も出来上がる状態まで漕ぎつけた。

然るところ、昨年来より石油飢饉と物資不足、物価騰貴の悪条件に見舞われ、業半ばにして会長の席を去るに忍びないものがあるが、幸いにして、後任に経験豊かな新会長を得、これを補佐するに辣腕の事務スタッフを以てするので、必らずやこの難局を乗り越え、協会の発展の新段階に入ることは、期して待つべきものがある。ここに、関係各方面の倍旧のご支援ご協力をお願いして、お別れの言葉とする。

なお、私は協会顧問として、主として除草剤、生育調節剤の残留に関する委員会のお世話を従来通り行なう予定となっているので、附記して今後のご援助をお願いする次第である。

昭和48年度桑園関係除草剤・ 生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

昭和48年度の桑園関係除草剤および生育調節剤試験成績の検討会は、昭和48年12月21日に東京（農林年金会館）で開かれ、試験担当場所ならびに日本植物調節剤研究協会その他関係者が出席して、成績の検討を行った。

本年の供試薬剤は除草剤9点（継続4点、新規5点）、生育調節剤4点（継続1点、新規3点）で、その判定結果は次表に示すとおりである。

昭和48年度桑園関係除草剤・生育調節剤試験成績審査判定表

A 除草剤

薬 剤 名 { 種 類 名 } { 商 品 名 }	剤型	有効成分および含有率	新継 の別	委 託 者 (会 社)	判 定	判定理由またはその内容
1. DCBN { DCBN } { プレフィックス }	粒	2,6-ジクロルチオベンザミド 6%	新規	プレフィックス 普及会 〔シエル化学〕	継	○ 飼育試験 ○ 薬量 ○ 地域拡大
2. DPA, DCMU { DPA, DCMU } { (ダウボン・カーメ) } { ックス }	粒	DPA: 2,2-ジクロルプロピオン 酸ナトリウム 10%	継続	石原蚕業	実・継	実:〔春・夏〕除草直後 5～8kg土壌処理